

会 議 議 事 録

1 会議名	令和8年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会
2 開催日時	令和8年7月9日（木）午前10時30分から正午まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟3階 301会議室
4 出席者名	（委員）三上委員長 水澤委員 草間委員 並木委員 （説明のために出席した関係者） 公立大学法人長岡造形大学 佐々木理事長 公立大学法人長岡造形大学 平山学長 公立大学法人長岡造形大学 安達副理事長 公立大学法人長岡造形大学 高橋事務局長 公立大学法人長岡造形大学 野上事務局次長 公立大学法人長岡造形大学 三重堀財務課長 公立大学法人長岡造形大学 池田財務課係長 公立大学法人長岡造形大学 佐藤財務課主査 （事務局）長岡市地方創生推進部 五十嵐部長 長岡市政策企画課 中村課長 長岡市政策企画課 上村課長補佐 長岡市政策企画課 大矢総括副主幹 長岡市政策企画課 高頭係長 長岡市政策企画課 浅野主査
5 欠席者名	槇委員
6 議事	（1）令和7年度業務実績報告書について （2）第2期中期目標期間業務実績報告書について （3）役員報酬規程の改正について
7 審議結果の概要	議事（1）（2）ともに、委員と大学との間で質疑応答を行い、今後の評価書づくりに反映させていくこととなった。 議事（3）について、委員から意見はなかった。

8 審議の内容	
事務局・政策企画課課長補佐	本日は、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。 これより、令和8年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会を開催いたします。はじめに五十嵐地方創生推進部長より御挨拶申し上げます。
事務局・地方創生推進部長	(部長挨拶)
事務局・政策企画課課長補佐	本日の評価委員会は、委員5名のうち4名が出席されておりますので、長岡市公立大学法人評価委員会条例第5条第3項の規定を満たしていることを御報告いたします。なお、このたびの評価委員会は、長岡造形大学の佐々木理事長、平山学長、安達副理事長、高橋事務局長、野上事務局次長、事務局職員3名に出席いただいております。 それでは、佐々木理事長から一言御挨拶をお願いします。
長岡造形大学・理事長	(理事長挨拶)
事務局・政策企画課課長補佐	佐々木理事長、ありがとうございました。 それでは、議事の進行を三上委員長にお願いしたいと思います。三上委員長、よろしくお願いいたします。
委員長	それでは、進行を務めさせていただきます。 議事を進める前に、今回の評価委員会の議事録署名人を決めたいと思います。草間委員と並木委員のお二人にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。 (草間委員、並木委員 了解) それでは議事に入ります。今回の議事は3件です。 1件目は、令和7年度業務実績報告についてです。大学から自己評価の説明をしてもらい、それについて各委員から御質問と御意見を伺います。財務状況については参考情報として御説明いただければと思います。

長岡造形大学・財務課長	2 件目は、第 2 期中期目標期間業務実績報告書についてです。1 件目と同じく、大学より説明をしてもらい、それについて各委員から御質問と御意見を伺います。 3 点目は役員等報酬規程の改正について、事務局から説明をしてもらい、各委員から御意見を伺いたいと思います。 それでは、1 件目の令和 7 年度業務実績報告について、大学から説明をお願いします。
委員長	(資料 1 により説明)
委員	ありがとうございました。 委員の皆さんから御質問などありましたら、お願いします。 志願者の確保についてです。いろいろな機会を捉えて受験生に訴求するよう努力されていることが十分わかりますし、全体としては効果が出ていると思います。しかしながら、これまで 5 倍前後を維持されてきていましたが、直近 2 年では、1 割弱下がっています。少子化により志願者数の全体が減少していることも影響していると考えられますし、直ちに問題視する必要はないと思ってはいます。他大学も含めた全体の動向として、大学間の競争が激化しているなどの理由から、今後も下がっていく懸念はあるのでしょうか。大学のお考えとして、直近 2 年の倍率をベースに維持していくというお考えなのか、5 倍前後に戻していきたいというお考えなのかお聞かせください。
長岡造形大学・事務局長	志願倍率が 5.4 倍と上がった令和 6 年度に向けては全国展開に注力しました。コロナ禍ではありましたが、オンライン説明会が効果的で、今まで高校訪問できなかった地域で実施できたり、多くの回数をこなすことができたりと、非常に多くの高校生と接点を持つことができ、高い志願倍率に結びつきました。その後、コロナ禍があげまして、生徒たちは、地元に残る思考から首都圏や関西圏に進学するという思考が強くなり、この地方から首都圏への流出は本学にも影響しました。現在、高校訪問の回数を増やすなどの一層の努力をしているところですが、全国的にはまだ知名度が低いので、地道に全国の高校を訪問し、本学の教育や就職に強いという強みをアピールしています。その他、SNS の活用などにも取り組みまして、令和 8 年度については微増になっていますし、オープンキャンパスの参加人数も増加傾向にあ

委員	ります。 また、何倍を目指すかということについては、難しいところです。高校訪問で高校の先生から聞いた話によりますと、最近の高校生は、大学を複数受験するのではなく、確実に受かる大学を決め打ちで受験する傾向にあるようです。そう考えますと、必死に倍率をあげることに注力するのは良いことなのかという視点もありまして難しいところです。総合型選抜及び学校推薦型選抜については、専門高校からの受験も多いのですが、専門高校は非常に就職に強いので、初任給の高い首都圏での就職を希望する生徒や保護者もいますので、高校によっては大学進学率が下がる可能性もあります。本学としては、大学に進学する意味、本学で何を身につけて、卒業後どのように活躍するか、どのような人材を育成しているかということを高校の先生や保護者の方にしっかりと伝えられるよう努めていきたいと思います。
	冒頭申し上げましたとおり、志願倍率が下がっていることを憂慮すべきという話ではないですし、今ほど御説明があったように、学生の思考や保護者の経済状況なども影響しています。日本全体の経済状況が悪化している中では、全体として大学進学率が下がりますので、その中でどのように大学の価値を生み出していくのかという視点で質問させていただきましたが、現状がよくわかりました。 また、就職率が 97.7%という驚異的な数字を誇っています。大学に進学せずに早く就職して稼ぐという考えもあるでしょうけれど、それでは得られない価値、大学で出会う人脈や地方都市である長岡を選んで進学して、この地で得られるものもあるでしょうから、そうした価値やメリットを高校の先生方や学生、保護者に働きかけていっていただきたいと思います。倍率が高ければそれで良いというわけではないですが、ある程度ないと教育の質やモチベーションに問題が生じると思います。今後の取組についても期待しています。
長岡造形大学・学長	平成 24 年度には志願倍率 1.0 倍という非常に苦しいときもありました。志願者数、志願倍率については、他大学含めてどのような動向にあるかという点を毎年厳密に確認しています。やはり、志願倍率が最低でも 2、3 倍はないと教育の質を確保できないと実感しています。その一方で、志願倍率 5 倍を維持していた時代は、一人が複数の試験区分を受験する傾向にあり、全ての試験区分を受験するケースもありました。一人が複数回受験しますと、その分志願倍率は増えます。現在は、受験生は自分の適性に合わせて試験区分を選択して受験する

	傾向に変わってきましたので、志願倍率は数字としては下がっていますが、実質的なところではそう下がっていないのかもしれないと考えていまして、今後よく分析していかなければならないと思っています。
委員長	定住自立圏地域優先枠の定員などについて、会議資料の中に情報はありますか。
長岡造形大学・副理事長	本日の会議資料にはありません。
委員長	定住自立圏地域優先枠はいつから実施されていますか。
長岡造形大学・副理事長	平成 26 年度の公立化のタイミングに合わせて定員 10 人で開始しました。その後、令和 3 年度から定員を 20 人に増やしました。以降、基本的には 20 人は確保するようというところで取り組んでいます。
委員長	推移としてはどのような状況でしょうか。
長岡造形大学・事務局長	志願倍率の推移としては増加傾向にあります。市内高校を中心に進路指導の先生に直接働きかけを行いまして、3、4 年前から大学見学の受入れなどをしています。その成果として少しずつ増加しています。
委員長	全体の志願倍率に対して、定住自立圏地域優先枠の志願倍率が高いという状況は、ひとつ考えどころかなと思います。この状況は今年だけなのでしょうか。
長岡造形大学・事務局長	御指摘のとおり、定住自立圏地域優先枠の志願倍率は年々高まっています。この状況については、今後、様子を見ながら見直しが必要かと思っています。
委員	一番素晴らしいと思った点は、指標単位評価の全てが年度計画を上回っていることです。具体的な内容を見ると、志願倍率や学生の授業内容満足度が高い数値になっていまして、大学の御努力を感じます。志願者が多いということは、経営的な面でも、質の高い学生の確保という面でも非常に重要だと思います。様々な取組をされているとのことですので、今後も期待しています。

	また、公立大学ですので、地域との関わりについてはどうしても他大学に比べて問われるところだと思います。地域の中で、地域の方とどのように関わっているかということについても、P23 の地域貢献に関する研究・プロジェクト数に顕著に表れているかと思います。 長岡市にある大学ですので、長岡地域の生徒たちに興味をもってもらい、志願していただき、長岡造形大学で学び、できれば地元で就職していただければ良いかと思いますので、その数値にも注視していただければと思います。必ずしも長岡地域で就職することが全てではありませんけれども、市民の方からはそれを望む声も聞こえてきます。長岡から良い人材を全国に輩出することも一つですし、長岡に残っていただいて地元で活躍することも一つだと思っています。非常に成果が出てきていますので継続して取り組んでいただきたいと思います。 先日、長岡造形大学の校友会、OB方と話す機会があったのですが、「長岡造形大学で学び、卒業後の将来のイメージができるようにOB・OGの姿を見せてほしい。」という声がありましたのでお伝えします。
委員	オープンキャンパスに多くの参加者が集まっていますが、高校生が大学のどのような点に魅力を感じているのか把握されていますか。
長岡造形大学・事務局長	一番は公立大学であるということです。特に、北海道、東北地域は公立志向が非常に高い傾向にあります。学費の負担が少ない、あとは、就職に強いことです。「デザインを学んだ後、就職はどうなるのか」ということを心配される保護者の方もいらっしゃいますので、しっかりとお伝えしています。それから、立地が良いところです。地方から首都圏の大学に進学した場合、首都圏での暮らしに慣れるまでに時間かかることもあります。そうしたケースが少ないと思います。また、大学の規模感としてもちょうどよく、学生と教員の距離感が教育・研究を進めるうえで適していると考えています。
委員	多くの学生が集まり、志願倍率も高くなるには、大学の歴史も必要なのだと思います。創立から 30 年以上が経ち、ここ数年で教育の内容も変わってきましたし、女子学生も多くなっています。先日、長岡造形大学の学生とお話する機会があったのですが、「大学生活は楽しい、学食もおいしい」とおっしゃっていました。学食についても学生からの意見を取り入れ、サブスクサービスを昼食のみから夕食にも拡大したり、以前に比べて、学生の健康管理にも一層配慮されたりし

	ています。また、24 時間体制のカウンセリングについては、学生に限らず、日中は周囲が気になったり、時間的制約があつて相談できなかったりすることもありますので、大変良いアイデアだと思います。また、女子学生が多くなれば、それに応じた支援体制を整えなければならないということで、生理用品の配布なども実施されています。そうした取組が在学生から高校生へ口コミで伝わることもあると思います。女子学生だけでなく男子学生にも必要な支援を行っていくことも必要ですので、今後の取組に期待しています。
長岡造形大学・学長	私の考えとしては、高校生が本学に来てやりたいことを学び、仕事にできるということだと思っています。本学では、造形、手で描くことに、時代の流れを反映し、情報化を取り入れたことが大きいと思います。今後も世の中の大きな流れを感じながら学生に反映していきたくと思っています。また、学食のサブスクサービスについては、毎日 20 m くらいの行列ができるほど人気です。多くの経費がかかり予算措置も大変なのですが、導入してよかったと感じます。学校に来るインセンティブになっているようです。
委員長	それでは次に、議事ではありませんが、参考まで、令和 7 年度決算の概要について大学から説明をお願いします。
長岡造形大学・財務課長	(説明) ありがとうございました。 いまほどの説明について、御質問がありましたらお願いします。 (質問・意見なし)
委員長	それでは、皆様よろしいでしょうか。 続きまして、議事 2 件目の第 2 期中期目標期間業務実績報告書について、大学から説明をお願いします。
長岡造形大学・財務課長	(資料 2 を基に説明)
委員長	ありがとうございました。 いまほどの説明について、御質問などありましたらお願いします。

委員	「業務運営等に関する目標を達成するための措置」のみB評価である理由をお聞かせください。
長岡造形大学・副理事長	B評価は「中期目標の達成状況は概ね良好」ということで大学としては合格点と考えています。A評価は合格点より少し高く、S評価はそれを超えて高い、という考えで自己評価をしています。業務運営については着実に進めておりまして、経営についても収支均衡を図りながら、適切に実施しています。ただ、総合的に見ると、他大学と比較して平準的という判断です。
委員長	評価の前提となる得点表のようなものはないですね。
長岡造形大学・副理事長	ございません。
委員	第4アトリエ棟の整備など、世の中のトレンドを見据えた構想の中で様々な取組を実施されていると感じます。世の中でA I 技術というものがあまりにも進みすぎて、ルールや倫理観というものを飛び越えていくのではないかと懸念される報道もお聞きします。大学では学生たちにA I 技術を駆使して、人類、社会のためになるようにということで教育がなされていることと思います。あまりにも技術の進歩が早いということで、教員もキャッチアップが大変なのではないかと思っていますが、参考までに、今の大学の現状や課題、懸念点などをお聞かせください。
長岡造形大学・学長	A I 技術は日々進んでおり、教育でもA I をある意味積極的に使わざるを得ない面もあります。その一方で、基礎的な部分を学生たちが培った上でやらなければ、A I が出した答えが正しいのか間違いなのか判断ができませんので、どのようにすれば適切に使えるかという基礎教育が非常に大切だと考えています。基礎教育を社会に対応させた形で見直していく必要があるということで、来年度以降に取り組みます。情報化はある程度は必要ですが、全部を情報化するのかどうかについては学内で議論があります。やはり実体験により、例えば水彩画、クレパスは何かなど最低限の知識はないといけませんので、基礎教育の今後の展開についてはよく検討してまいります。 また、社会に出るとA I を活用して仕事をしていかなければなりま

	せんで、就職活動や社会との接点では積極的に使用する必要があると思っています。 現状として一番課題となっているのは卒業研究への活用です。どのように使ったのかを明示したうえで作品としてまとめるよう指導しています。適切なA Iの使い方について学生・教職員ともにしっかりと考えていかなければならないということが日々の課題です。
長岡造形大学・理事長	A Iはもう避けては通れませんので、基礎が培ったうえでA Iを積極的に使っていかなければいけないと思います。同時に倫理についても教えていかなければならないと思っております、内容を検討しています。
委員長	皆様よろしいでしょうか。 事務局は、今の議論をもとに評価書案の作成を進めてください。 それでは最後に、議事3件目の役員報酬規程の改正について、事務局から説明をお願いします。
事務局・政策企画課長	(資料3に基づき説明)
委員長	ありがとうございました。 委員の皆様から御意見がありましたらお願いします。 (意見なし) 皆様よろしいでしょうか。 本日予定していた議事は以上となります。 進行に御協力いただき、ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。
事務局・政策企画課課長補佐	三上委員長ありがとうございました。 最後に今後の流れについて事務局から御連絡いたします。 (次回会議日程等について説明) それでは、以上をもちまして「令和8年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会」を終了いたします。ありがとうございました。

上記議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名する。

委 員

委 員

9 会議資料

- 次第・出席者名簿
- 資料 1 令和 7 年度業務実績報告書
- 資料 2 第 2 期中期目標期間業務実績報告書
- 資料 3 公立大学法人長岡造形大学役員報酬規程